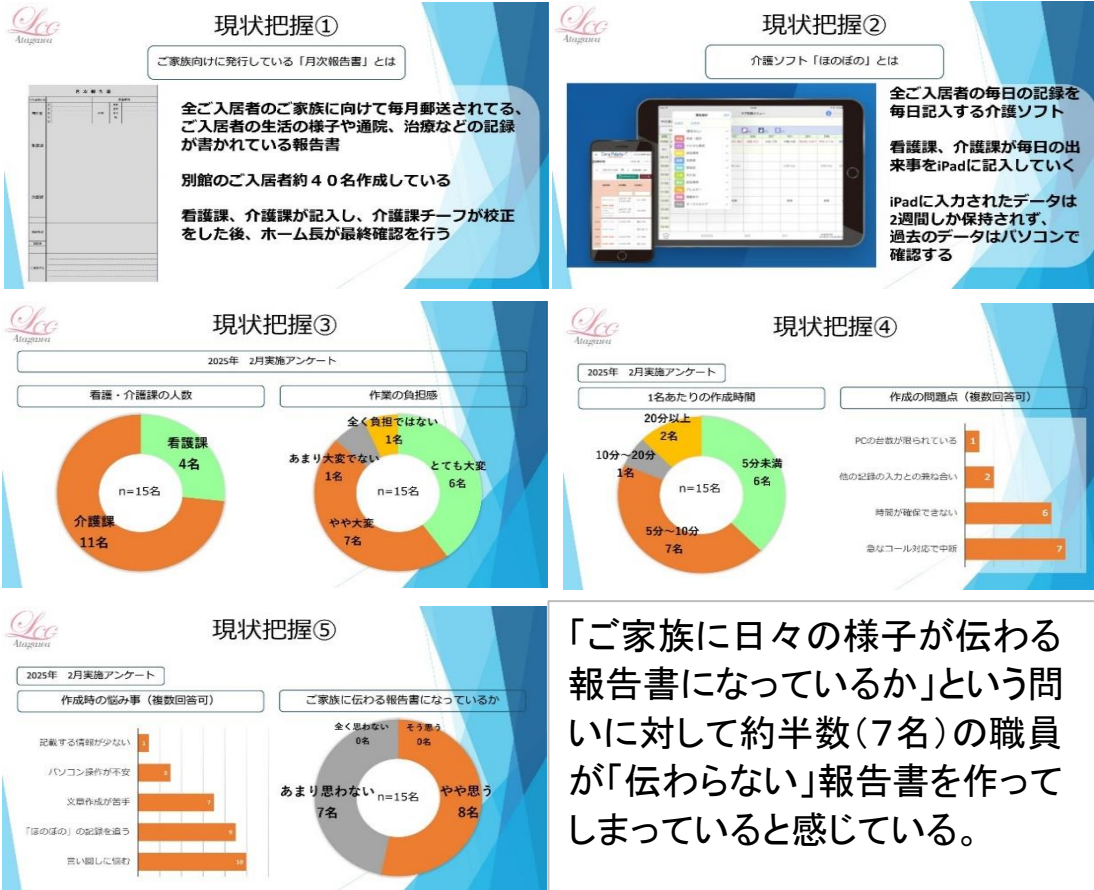


演題名	ご家族への報告書における品質向上の取り組み ～より伝わる・伝える報告を目指して～		
施設名	ライフケアガーデン熱川	ふりがな 発表者(職種)	いしい たかゆき 石居 孝幸 (営繕)
ふりがな チーム名	ういず ちゃっぴー With チャッピー		
分類	④無駄の削減や能率向上、業務環境の改善をめざすもの		
取り組み種別	問題解決型		
改善しようとした 問題課題	DXの活用をメインに考えたうえで、「親身な対応」に結びつくようなテーマを考えました。その中でも、ご入居者ご家族の満足度向上を目指したいとして、『ご入居者のご家族に送付する月次報告書の品質向上』をテーマとしました。		
改善の指標と その目標値	(指 標) 別館職員がご家族向けに作成する報告書の満足度 (目標値) 「あまり内容が伝わっていない」と回答した職員の人数を7名から0名にする		
実施した対策	①看護、介護の作業分担の見直し ②日常の記録を利用して、報告書作成の時間を削減 ③AI、ChatGPTの活用 ④介護ソフト取り扱いの研修の実施		
改善指標の 対策実施 前後の変化	(実施前) 「あまり内容が伝わっていない」と回答した職員7名 (n=15名) (実施後) 「あまり内容が伝わっていない」と回答した職員0名 (n=15名) ご家族に思いが伝わる報告書になっているかという問いに対して、5名の職員が「そう思う」10名の職員が「やや思う」となった		
歯止めと 標準化	【標準化】DX、AIの活用方法を習得した職員がパソコン、スマホを利用できる場所で少しずつ技術を広めていく 【管理の定着】DX、AIの利用状況をTQMメンバーがパソコンの使用場所で報告書の作成をサポートしつつ利用状況を毎月確認 【教育】DXの活用事例をTQMメンバーが看護・介護課で日常的に利用する習慣をつけていく		
活動の種類 ※複数選択可	②複数の職場が連携した活動 ③テーマに合わせて形成したチーム活動	チーム メンバー (職種)	1 岩崎 航太 総務 2 石居 孝幸 営繕 3 梅原 春美 准看護師 4 佐藤 麻里子 正看護師 5 竹内 司 ケアマネジャー 6 山崎 智弘 介護福祉士 7 佐藤 昌幸 介護福祉士 8 齋藤 美穂 介護福祉士 9 長谷川 千代 経理
活動の場 ※複数選択可	④その他 ②支援部門 ③管理部門		
活動期間	2025年2月 ～ 6月		
リーダー名 (職種)	岩崎 航太 (総務)		
活動回数	10 回		

【現状把握】



【目標設定】

目標設定

◎いつまでに・・・

6月中旬までに

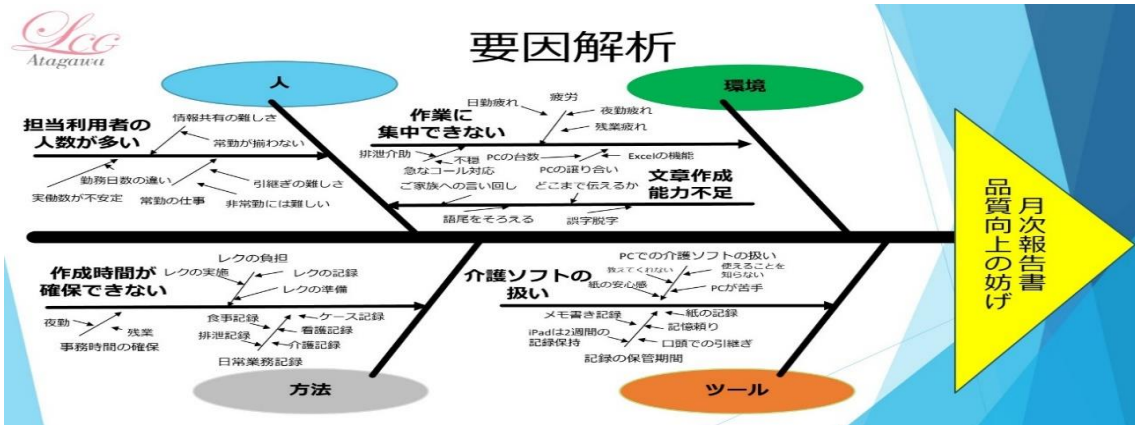
◎何を・・・

別館 看護・介護課の月次報告書を

◎どのように・・・

報告内容に不満がある職員を7名⇒0名にする

【要因解析】



【対策の立案と実施】

対策の立案と実施①

対策項目	なぜ	何を	いつ	どこで	誰が	どうする
① 担当利用者の人数が多い	看護課の職員が少ない	看護課の記入する情報を	5月末までに	パソコン操作にて	看護介護	作業分担できるようにする
② 作成時間が確保できない	利用者1名に5分～30分ほど記入時間が必要	記入時間を	5月末までに	パソコン操作にて	看護介護	記入時間を短縮する
③ 文章作成能力不足	文章作成や言い回しに悩む職員が多い	記入方法を	6月末までに	パソコン操作にて	AIG	AIGが文章を生成する
④ 過去の記録を参照することが難しい	介護ソフトの機能をよくわからないまま使っている職員が多い	介護ソフトに関する研修を	5月末までに	施設内で	事務	研修を行う

対策の立案と実施②

攻撃対象⇒ ① ② ④

- ① 新たに設定された「月次ボタン」を押してもらい、活用するための活動を行う
- ② 「月次」ボタンを押すことによって、Excel (.csv形式)の中から「月次報告書」に記載したい内容を探しやすくなることを伝える
- ③ 介護ソフト「ほのぼの」の機能を理解していただいたのち、Excel (.csv形式)にて出力をできるようにする
この作業によって、全入居者の1か月分のデータを一括で出力することができるようになる

対策の立案と実施③

攻撃対象⇒ ① ② ④

介護ソフト「ほのぼの」の機能を理解していただくため、マニュアルを作成。
そして、複数回にわたり「ほのぼの」の機能について研修会を実施。
過去に記入したデータをExcel (.csv形式)にて出力できることを説明。

月次報告書 月のほのぼの出力手順
まずは1ヶ月分の看護介護記録を出力します。




対策の立案と実施④

攻撃対象⇒ ① ② ④

1か月の中から「月次」を抽出することで、普段と違う様子を探し出すことができるようになる



このスライドはダミーデータです

対策の立案と実施⑤

攻撃対象⇒ ① ③

文章作成能力を補うために、チャットGPTの活用を提案
職員に配布されているスマートフォンにアプリを入れて
各職員で操作してみるよう促してみました...

初めまして
チャットGPT
略してチャッピー

なんだかよくわからない...



対策の立案と実施⑥

攻撃対象⇒ ① ③

ご利用者の人生時事ニュース
組み合わせた年表を作成できる

写真から塗り絵の枠線を作れる

伊豆を楽しむレクの提案

職員のお仕事タイプ診断ができる

もしかして楽しいツールかも？



対策の立案と実施⑦

攻撃対象⇒ ① ③

介護ソフトにて作成したご利用者のExcel (.csv形式)データを
文章にするためのチャットGPT講習会を実施

Excelの表を文章にできるよ



対策の立案と実施⑨

攻撃対象⇒ ① ③

たまに事実と違う情報も混ざるよ
*ハレシネーション注意

個人を特定できる情報(名前など)は
入れないようにしてね
TEAM (有難げ)ならは問題はないが、
念のためルールとしている

看護と介護の情報が混ざることもあるし、
専門用語も使うかも？
修正してね

プロンプトがあればExcelの表から看護・介護両方の担当の文章を一度に生成できるよ！



対策の立案と実施⑩

【看護からの記録】

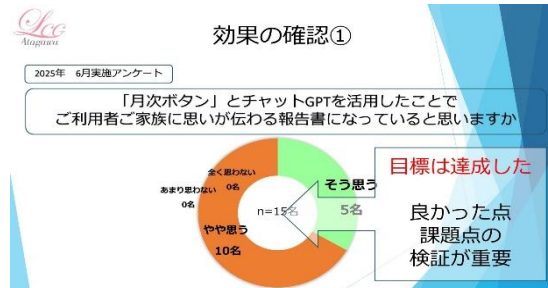
5月はご本人にとって大きな生活の変化となる別館への移動がありましたが、新しいお部屋でも落ち着いて過ごされており、日中は読書や音楽鑑賞を楽しまれる様子が見られました。移動当初は転倒リスクを考慮し、夜間センサーを使用していましたが、特段の異常はなく、1週間以内に解除されています。排泄は自立されており、定期的にパッド交換もご自身で行われています。指先の白癬に対して処方された外用薬（ネイリン）を1日1回使用中で、皮膚科医より継続使用の指示が出ています。5月の血液検査では、やや脱水傾向が見られたため、水分摂取の声かけを強化していますが、全体としては安定した状態を保たれています。食事は偏りなく召し上がられ、牛乳や乳製品の摂取にも特に拒否は見られていません。引き続き、生活リズムや体調の変化に留意しながら支援を継続してまいります。

【介護からの記録】

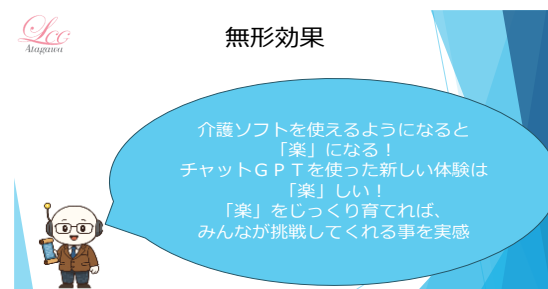
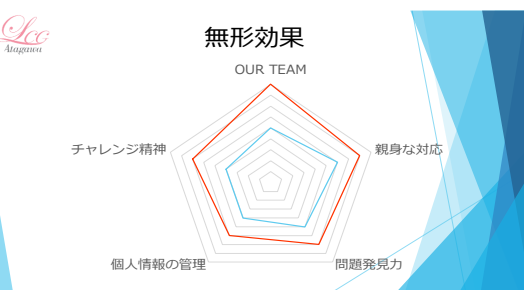
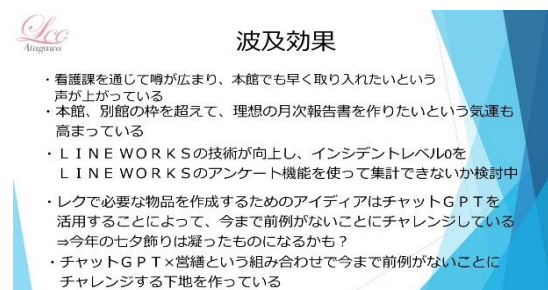
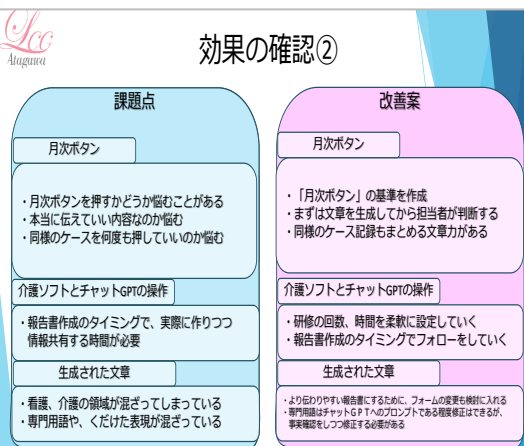
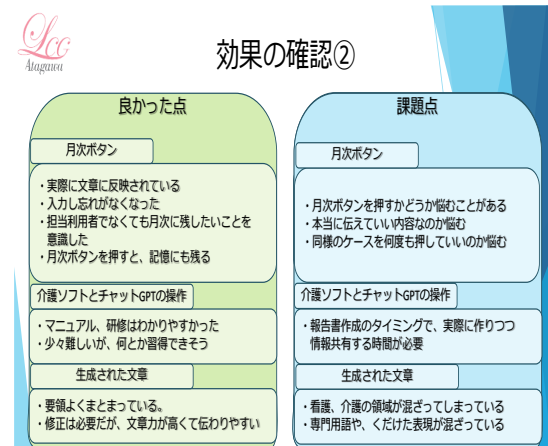
5月は居室の変更がありましたが、ご本人は新しい環境でも特に混乱されることなく、落ち着いた様子で生活されています。室内では新聞やクロスワードパズルに取り組まれることが日課となっており、時折スタッフに笑顔で話しかけてくださる姿も見られます。排泄については、昼夜ともにトイレを使用されており、ご自身でパッドを交換される場面も多く見られました。食事はご本人のペースでゆっくりと召し上がられ、味の高みに応じて調整を希望されることがあります。「お腹が張るとしんどい」と話されることがあるため、分量はご本人と相談しながら無理のない範囲で提供しています。5月のレクリエーションではカラオケや園芸活動に意欲的に参加され、特に「昔よく歌ったのよ」と歌唱レクではとても生き生きとした表情をされていました。日々の生活の中で小さな楽しみを見つけながら、穏やかに過ごされています。

*ダミーデータを基にした生成文章です

【効果の確認】



日々の大切な記録を「月次ボタン」として記録することで、ChatGPTが文章生成しやすくなった。
担当しているご入居者が他の職員に見せていた良い面も報告書に反映されるようになった。



【標準化と管理の定着】

標準化と管理の定着

なぜ Why	何を What	誰が Who	何処で Where	どのように How to	いつ When
標準化	DX, AIの活用を	技術を習得した職員が	パソコン、スマホを利用できる場所	少しずつ技術を広めていく	随時
管理の定着	DX, AIの利用状況を	TQMメンバーが	パソコンの使用場所	報告書の作成をサポートしつつ利用状況を確認	毎月
教育	DXの活用事例を	TQMメンバーが	看護・介護課で	日常的に利用する習慣をつけしていく	毎月

【反省と今後の進め方】

反省と今後の進め方

手順	良かった点	悪かった点	今後の進め方
テーマ選定	DXとAIの活用アイデアを出すことができた		様々な可能性を検証していく
活動計画	おおむね活動することができた	DX, チャットGPTに詳しい職員の活動が主になってしまった	継続して行なっていく
現状把握と目標の設定	職員アンケートで様々な思いを聞くことができた	初期の段階ではターゲットを絞ることが難しかった	「攻撃対象を絞る」という基本を大事にする
要因解析	バランスよくアイデアが出た	たくさんのアイデアが出ればよかった	自由な雰囲気、もっと活発に意見が出せる環境を作る
対策の立案と実施	DXが苦手な職員も、強い興味を引くことができた	技術を完全に習得できた職員は15人中1名3名の職員はなんとかできるという結果	研修を継続して行うことで、技術習得者を増やしていく
効果の確認	DXの様々な可能性を、多部署で感じることができた	もっと活動できていれば、さらに良い結果になっていたと思われる	技術習得者を増やして、様々なアイデアを出していく
標準化と管理の定着	DXは面白いという意見があった もっとパソコンを使ってみようという意見もあった	技術ある職員の時間が限られているため、なかなか波及しない	技術習得者を増やし、標準化を目指していく